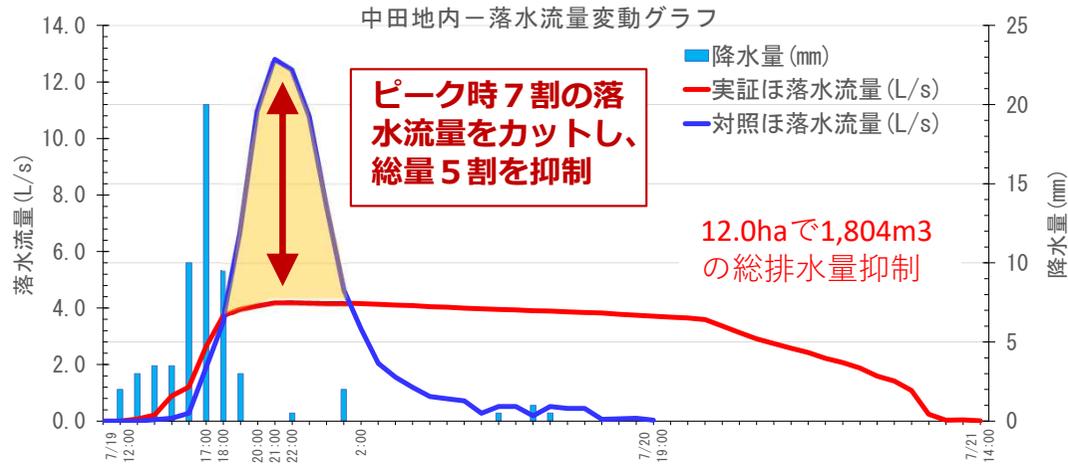


協議事項

- 令和6年1月29日に県内の先進的な活動組織、村山地域14、置賜地域8の市町、関係団体で開催。
- 農林水産省農村振興局農地資源課から講演をいただいた。

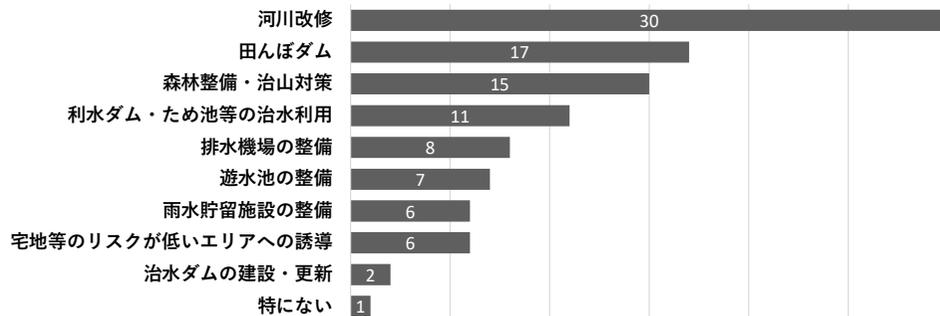
● 田んぼダム貯留機能効果の検証結果



● 田んぼダムに関するアンケート実施結果

調査対象を県内すべての市町村と土地改良区とし、今後の田んぼダムを推進するにあたって、各組織でどのような課題を持っているかを把握し、今後の取組みにつなげるため実施。

問1 流域治水において貴市町村で特に重視する取組みは何ですか。(市町村)



● 稲作への影響調査結果

- 最高分げつ期頃の茎数の区間差と穂数の区間差は概ね同様の傾向であった。穂数については、概ね指標値を確保されており、実証区での一時的な深水による茎数や穂数への影響はほとんどなかったものと推察される。
- 収量については、実証区と慣行区で大きな差は見られなかったが、地力や肥培管理の違いや、坪刈り時の登熟進度の違いが、収量差に影響したものと考えられる差が生じたものもあった。

● 令和6年度の実施計画概要

事業の推進を4つの方針に基づき実施していく。

方針1 田んぼダムの理解の促進	方針2 多面的機能支払における田んぼダムの組織的導入の検討	方針3 各市町村、改良区など田んぼダムに取組めない原因の改善	方針4 農地整備事業における田んぼダム導入の働きかけ
--------------------	----------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------

● 動画配信による田んぼダムの普及（デモ動画）

今後の普及拡大に向けて、田んぼダムのやり方や効果を解説する、農家向けの動画をYouTubeで配信する。
R6年度は多面的機能支払活用団体に向けて広報していく。



意見交換（主なもの）

中山間などの上流部の理解を少しずつ得ていく取組みが必要

- 方針のまとめはよいが、田んぼダムを実施すると、排水が総量で抑制され、浸水エリアも縮小するといった、数値や地図で具体的に表せると、より理解が得られるのではないか。
- 市町村、改良区のアンケートが実態を表しているものとは思えないので、多面的機能支払活動団体が悩んでいるところを集約したアンケートも欲しかった。
- 農家への説明では、豪雨の影響が大きい7月～9月などの対策期間を示した方が取組みやすいのではないか。
- 動画については導入としてはすごく分かりやすい。紙で見ってもらうより、映像で流した方が、人にとって伝わりやすいと感じる。
- 農地整備が古い年代の土地改良区では、長寿命化の対策に費用がかかるので、田んぼダムには取り組めないとの話もある。

- 地域を面的に把握している多面活動組織や土地改良区などの組織が、リーダーシップをとって取組みを進めることが、今後、拡大のポイントになる。
- 特に中山間部で心配されている、畦畔が崩れやすい、法面が崩れるというような懸念は、今後、払拭していかなければならない。
- 上流部では、田んぼダムが進んでいない。いかに上流での取組みを進めていくかが、流域全体で氾濫を防止することに繋がっていく。
- 田んぼダムの取組みは、あまり構えずに少しずつ気長にやるのが大事であり、北海道岩見沢市、新潟県見附市、栃木県小山市など、成功してる事例は全て下流から始めている。上流から取組むのは効果的ではあるが、下流側から少しの面積で取組み始め、影響が無いことが理解されると、上流の人にも了解を得ながら、地域の共感を得て少しずつ増えていっている。

